

藤村全集

第一卷

筑摩書房版

新裝版 藤村全集第三卷

昭和四十二年一月十日初版發行
昭和四十八年四月十五日再版發行

著者 島崎藤村

井上達三

東京都千代田區神田小川町二ノ八
株式會社
電話 東京四一七六五一(代表)
振替口座 東京四一二三番

(分類) 0393 (製品) 72903 (出版社) 4604

第一卷 目次

若菜集

| | | |
|---------|-------|----|
| 若水 | | 三 |
| 春の歌 | | 三 |
| 佐保姫 | | 三 |
| 春の曲 | | 二西 |
| 醉歌 | | 二西 |
| 二つの聲 | | 二西 |
| 白壁 | | 二西 |
| 四つの袖 | | 二西 |
| 暗香 | | 二毛 |
| 蓮花舟 | | 二毛 |
| 葡萄の樹のかげ | | 二毛 |
| 高樓 | | 三西 |
| 天馬 | | 三西 |
| 哀歌 | | 三西 |
| 母を葬るのうた | | 三西 |
| 梭の音 | | 三哭 |
| かもめ | | 三哭 |
| 流星 | | 五哭 |

夏の夜

吾

晝の夢

吾

東西南北

吾

懷古

吾

秋のうた

吾

初戀

吾

狐のわざ

吾

相思

吾

一得一失

吾

傘のうち

吾

えにし

吾

知るや君

吾

秋風の歌

吾

雲のゆくへ

吾

逃げ水

吾

月光

吾

強敵

吾

別離

吾

望郷 空

松島瑞巖寺に遊び葡萄栗鼠の木彫を觀て 窓

鶏 窓

深林の逍遙 空

一葉舟

序 六

おちば

春やいづこに 空

鶯の歌 空

銀河 空

白磁花瓶賦 空

きりくへす 空

ながれみづ

夏草

| | |
|-------|-----|
| 晚春の別離 | 一六九 |
| 暁の誕生 | 一七一 |
| 終焉の夕 | 一七四 |
| 月光五首 | 一七八 |
| 其一 | 一七八 |

| | |
|---------|-----|
| 松島だより | 一五五 |
| 葡萄の樹の蔭 | 一〇一 |
| 春詞 | 一〇四 |
| 秋詞 | 一一一 |
| 哀縁 | 一一六 |
| 亡友反古帖 | 一一九 |
| 友に寄するの書 | 一二〇 |
| 西花餘香 | 一二七 |
| 木曾谿日記 | 一四五 |

| | | |
|---------------|--|-----|
| 其二 | | [六] |
| 其三 | | [七] |
| 其四 | | [八] |
| 其五 | | [八] |
| うぐひす | | [八] |
| かりがね | | [八] |
| 新潮 | | [八] |
| 一 | | [四] |
| 二 | | [四] |
| わすれ草をよみて | | [九] |
| 高山に登りて遠く望むの歌 | | [九] |
| 二つの泉 | | [九] |
| 天の河二首 | | [九] |
| 其一 七月六日の夕 | | [九] |
| 其二 七夕 | | [九] |
| 落梅 | | [九] |
| 婚姻の祝の歌 | | [九] |
| 其一 花よめを迎ふるのうた | | [九] |

其二　さかもりのうた 一六六

農夫

一六六

序 利根川のほとりにて

一〇〇

上のもき 一 田畠の間なる小道にて

一〇〇

二 まへとおなじ小道にて

一〇四

三 鍛冶の家にて

一一〇

四 林の中

一一四

下のもき 一 緑の樹かげにて

一一七

二 深夜

一一一

三 鍛冶の家のほとりにて

一一八

夏草の後にしてす 一〇一

落梅集

序 一

一三四

序 二

一三五

小諸なる古城のほとり

一三七

勞働雜詠

[三七]

其一 朝

[三七]

其二 畫

[三九]

其三 暮

[四一]

壯年の歌

[四二]

其一 埋木

[四三]

其二 告別

[四四]

其三 佯狂

[四五]

其四 草枕

[四五]

其五 幻境

[四五]

其六 邂逅

[四六]

惡夢

[四五]

雲

[五三]

黃昏

[五三]

綠陰

[五三]

罪

[五三]

其一 めぐり逢ふ君やいくたび

[五七]

胸より胸に

[五七]

其二 あゝさなり君のごとくに

二六

其三 思より思をたどり

二六

其四 吾戀は河邊に生ひて

二七

其五 吾胸の底のこゝには

二七

其六 君こそは遠音に響く

二七

蟹のなげき

二七

浦 島

二七

銀 鎖

二七

夏の夢

二七

利根川だより

二七

椰子の實

二八

海邊の曲

二八

蟹の歌

二九

舟 路

二九

千曲川旅情のうた

二九

常磐樹

二九

寂 鬱

二九

響りん／＼音りん／＼

二九

| | |
|--------|-----|
| 叢 入 | 三〇〇 |
| 鼠をあはれむ | 三〇一 |
| 問答の歌 | 三〇一 |
| 其 一 | 三〇一 |
| 其 二 | 三〇一 |
| 鳥なき里 | 三〇一 |
| 七曜のすさび | 三〇一 |
| 木曜日の散歩 | 三〇八 |
| 金曜日の懷舊 | 三〇八 |
| 土曜日の音樂 | 三〇九 |
| 日曜日の談話 | 三一三 |
| 月曜日の手紙 | 三一六 |
| 火曜日の新茶 | 三一九 |
| 水曜日の送別 | 三二三 |
| 雅言と詩歌 | 三三五 |

早春

早春記念

仙臺雜詩

姉の家にて

淺間の麓

貝割葉

解題

校異

一〇九

二二

一〇八

二三

一〇七

二四

若
菜
集

う お あ そ か こ む ぶ あ な ひ こ
た ほ ぢ は げ ト ら だ た さ と ト
ゝ か は う に ろ さ う ゝ け ふ ろ
ね た ひ た お あ き だ か あ さ な
の は も の く る の な き る の き
ゆ か い わ ふ ひ そ ふ さ て ぶ う
め み ろ か さ と れ か け に だ た
の て も き の の に く と も う の
そ す あ ゆ み な あ か な つ の し
ら つ さ ん つ さ ら ト る ま ご ら
ご べ く な よ け ね れ ら れ と べ
と き て り つ に ど る む て し は